地域復興救急科
～医学生がつくる地域コミュニティ拠点～

チームPREドクターズ［奈良県橿原市］

団体設立の経緯

私たちは全員、医大生です。

もともとは将来医者になるという目的のもと、大学の中での座学だけでなく、広く社会のことに関心をもち、自分たちなりに考えそれを実践してきました。はじめは気の合う友人2、3人でものづくりからスタートしました。

病院で捨てられていた車椅子を改造し、三輪車を制作しました。実は、車椅子に乗っている人が、立って歩くことはできないけれども、座って足を動かす筋力のある人が多いことに着目した、ペダルつき足こぎ車椅子の制作です。

このほかにも鳥人間に挑戦しようと、航空力学を勉強し、模型をつくって実験したり、設計図を書くなどしました。結果的にはコンテストに出場できませんでしたが、今までに関わったことのない職種の人とかかわり、刺激を受けました。

その後も、無料学習教室やラーメン屋台の開業から、縁があってカレー店を開店するなど、積極的に社会と関わっていくことで、色々な支援を受けて成長してきました。

地域概要

南八木町がある奈良県橿原市八木地区は、近鉄大和八木駅の南東にあり、古代からの幹線道路である南北に通る「下ッ道」と東西に通る「横大路（伊勢街道）」との交差点である「八木札の辻」を中心に、歴史的な町並みが残っています。

しかし近年、住み手のいなくなった町屋の老朽化及び空き家化が多く見られ、地域の活気がなくなってきています。

一方で元気の源もあります。それは、子どもたちです。八木町には、晩成小学校、鴨公小学校と由緒ある小学校があり、すこし寂しくなった町屋通りで、朝と放課後に子どもたちの元気な声を聞くことが出来ます。

このような状況の中、地域に昔から住み、町を活気づけようという動きがあり、「NPO法人八木まちづくりネットワーク」を始めとしたいくつかの団体が活動しています。

設立年月 ･･･2010 年 4 月
メンバー数 ･･･41 名
代表者名 ･･･ 峯昌啓（みね・あきひろ）
連絡先 ･･･ 〒634-0077　奈良県橿原市南八木町 3-2-7
predoctors@hotmail.co.jp　http://predoctors.jimdo.com/
団体のミッション ･･･ チーム PRE ドクターズは、
奈良県橿原のちょっとさびしくなった町屋通りを元気にするため、
空き町屋を改修し、地域のひとと共同でのイベント開催、
地域の子供たちの勉強をみる寺子屋をおこなっています。

ママさん主催
クリスマスツリー作り

活動に至った理由や背景

私たちの学校の近くには昔ながらのよさが残る町屋通りがありながらも、日常生活ではほとんど使わず、新しくできた幹線道路で医大に通っていました。そんな中で、芸術を使って活気がなくなってしまった町屋通りを盛り上げるためのイベント「HANARART」の開催時に、初めて町屋を訪れました。町屋のよさを実感した一方で、看板などがとり残されたままの昔ながらの商店街の雰囲気も感じました。地域の町おこしNPOの方とお話をする中で、それまで自分達が興味をもったことを周りの人々から支援を受けて行ってきた経験を基に、この場所を盛り上げるような活動をしたいと考えました。

その後、奈良県立医科大学の学生を南八木町に呼び込み、日常的にまちに開きコミュニティの拠点となるような、様々な人々が集い交流する場の創設を目的として、空き家となっている古い町屋を改修し、食堂と子供たちに勉強を教える寺子屋を開設・運営していくことになりました。

活動の内容と成果

活動をしようと決めた当初、築90年、家主のかたが家を出てから20年ちかくたっていた町屋は床を踏み抜いてしまうような状況でしたが、建築家岸上純子さんや、大阪工業技術専門学校の左海先生、またその学生さんたちの多大なる協力があり、床の貼り直しから壁ぬり、構造の補強や、トイレの設置にいたる改修作業を完了することができました。

7月10日に「南八木町屋食堂はる」、「寺塾」としてオープンさせ、現在も運営に奮闘しています。また、地域の人の交流の場となる利用もすすめていて、これまでに、地域の小学生に漆喰塗りを体験してもらうWSの開催や地域の夏祭りである愛宕祭りの出店のほか、町屋をアートでもりあげる奈良県のイベント「HANARART」では町コンを開催しました。また、近所のお母さん方のクリスマスの置物作りや、手芸教室といったイベントにも定期的に使っていただき、地元の町内の新年会や町づくりNPOのミーティング会場にも使っていただいています。

築90年の空き町屋を食事処、イベントスペース、寺子屋と多目的に使える場として改修

改修によって床の貼り直し、新建材がはがれてむき出しになっていた壁の左官作業、構造の補強や、トイレの設置や電気、ガス、水道の整備にいたる改修作業を完了しました。現在も町屋の雰囲気を味わうことのできるご飯処やイベントスペースとして活用していますが、白壁と杉材のフローリングで多目的に使用できるように完成させました。

改修作業を通して、私たち医大生が多く町屋通りに出入りするようになりました。いままで医大から歩いて5分程度であるにもかかわらず、ほとんど通ったことのなかった町屋通りに来て、そこで作業をすることで、関心をもった周囲の古くから住む近所の人たちとの交流も自然に生まれました。毎日のように木を切ったり、壁を塗ったりの作業を一緒にしてくれるようになりました。私たちがその後地域で活動するときに、地域の人に声をかけあっていく第一歩となりました。

交流が生まれたのは医大生と地域の人だけでなく、町屋の改修に関心のある建築系の学生も何度も改修作業を手伝いにきてくれました。建築家の岸上純子さんを窓口として、大阪工業技術専門学校の左海先生の協力が得られ、学生さんたちが私たちではできない構造の補強をおこなってくれ、左官作業や土台づくりまで専門的な作業をサポートしてくれました。

また、学生さんの側でも町屋の改修は学校では得難い実地での経験となったようで、今年からほかの町屋を使ったWSを企画しているとのことで、空き町屋街に医大生だけでなく、他の学生団体も継続的に活動をする足がかりとなっていきそうです。

左から時計回りに:屋根の修理／水道工事／白壁塗り／小学生と白壁塗りWS

カレー、丼をはじめとした
ご飯処の開業から
地域のひとが使えるイベントスペースまで

町屋を改修して、町屋の雰囲気を味わいながら、カレーや丼といった誰もがなじみのある食事をとることのできる食事処を開業するに至りました。

当初、学生を中心にお店に人を集めることを目指していましたが、結論からいうと、食事処を毎日開店し、金銭や人のやりくりの面で十分に運営できるほどの集客と、こちらのスタッフの労働面での体制づくりをするには至りませんでした。原因としては、店の営業スタッフが医大生を中心とした学生であったため、夜のみの営業しかできず、近所の人や多くの学生がのぞむランチどころとしての営業ができなかったこと、また毎日の営業には集客の多寡にかかわらず、ルーチンでの買い出しや仕込み、お店の番といった仕事があることなど、どれだけの規模で営業するか事前に十分に検討できていませんでした。

町屋の雰囲気は喫茶店や食事処にぴったりあい、活用法として素晴らしいと思うのですが、その中で、しっかりと金銭的、人的にまわしていくためには、こちらがどれだけの体制で運営できるかを、はじめにじっくりと考慮していなければならないとわかりました。そこで現在はこれまで来ていただいていた、医大生の部活での宴会、町づくりNPOの食事会、医大関係者や町屋の活動に協力してくれていた他大学の宴会の予約に対応するという形で、週に1、2回程度の営業で負担を軽減し、かつ、運営資金もまわせるような営業形態にしています。

また、その分、町屋のスペースがあいている時間には地域の人達にイベントスペースとして使ってもらえるようになっていて、現在のところ少しずつ、地域のママさん会、NPOのミーティング会場、地域の会合の場として使ってもらえる機会を増やしています。今後さらに、町屋を使っていない時間帯やお昼に、地域の人が主体となってイベントスペースとして、また継続的なカフェや飲食店として、私たちが営業できない時間にも町屋を活用してくれるような体制づくりをしていきたいと考えています。

町屋ダイニング「はる」のオープン

地域の子供たちのための寺子屋

寺子屋教室「寺塾」は晩成小学校から徒歩3分という立地のよさもあり、放課後になると毎日、小学生が走ってきて元気な声をきかせてくれる場所として定着してきています。

はじめは4人だった生徒も口コミで現在19人になりました。寺子屋のコンセプトも普通の進学塾とは異なり、日々の学習習慣をつけ、自分で勉強を管理できるように指導しているため、来ている子どもが小学生から中学生、中学生から高校生に進学しても来てくれているケースも多く、親御さんからも小学校から高校まで面倒をみてほしいといわれることがありました。

毎月行っているアンケートでは、「わんぱくな二人に勉強させてもらってありがたいです!学校の宿題もスーッとこなしてくれているのでうれしいです」といった温かい声も聴けて、寺塾が少なからず地域のご家庭に貢献できていることを実感しています。

また、教える医大生の側も小学生から高校生まで様々な年齢の子供と触れ合うことが新鮮で、将来医師となるうえでの貴重な経験となっていることを実感でき、講師を志望する学生も多く、そういった面でも、継続性が確保できそうです。10年間の継続をキーワードに、今後も地域のために、そして自分たちのために精進してまいります。

左から時計回りに:町屋玄関正面／「寺塾」風景（2枚）／手作りブランコで遊んでもらう

地域の人が使えるようにした イベントスペースとしての 町屋の活用

町屋にいろいろな人が出入りし、交流する場を提供しています。これは現在のところ、寺子屋に通ってくれているお母さん方の企画がメインとなっていますが、手作りの小物づくりなどをママさんと子供でおこなっていくというもので、こちらの担当者も企画に加わる形で、お母さん方のコミュニティの場として継続的に利用してもらえそうです。

これまでに地域の新年会、地元の町づくりNPOのミーティング会場として使ってもらっています。また地域のお母さん方にリースづくり、クリスマスミニツリーづくり、小物手作り教室など毎月のように使ってもらっています。

子ども、地域のママさん、住民と大学生の緩やかな環がひろがってゆく。

今後の予定

現在、定着しつつある寺子屋教室「寺塾」と予約専門店の食事処「はる」を町おこしの拠点として今後も継続していきます。

加えて、町屋通りに活気を呼び込むために、町屋に主体的にかかわってくれる地域の人や外からの学生を増やしていきたいと考えています。現状では、医大生が企画、運営しているところにまちおこしNPOや医大関係者、小学生から高校生までの子供がきてくれているということにとどまっています。平日は夕方からしか町屋を活用できていないというこちらの運営体制もあります。

そんな中で、イベントスペース「はる」としての貸出をはじめてからは、同じ町屋どおりに住むお母さんが、平日のお昼や祝日休日に地域のママさんが子供をつれてきて一緒に楽しめる企画を立ててくれるようになり、町屋のなかに新しいコミュニティづくりの場ができました。お母さん方から今後も使っていきたいという要望もあり、多様な世代の継続的な町屋の利用を促し、地域の活気づくりの一助となりつつあることを実感しています。

ほかにも、町屋の改修を手伝っていただいた建築系の学生や芸術関係の学生さんが、主体的に町屋にかかわる活動も計画しています。大阪工業技術専門学校の左海先生と建築サークルでは新たに町屋を使い、学生が町でWSを行うことのできる拠点をつくることができないか模索中です。

また奈良芸術短期大学の学生さんには、町屋のトイレの内装をキャンパスに見立て今は亡き「大藤原京」なるものを描き上げていただいたご縁もあります。そのため、同大学の教員や南八木町の町屋バンクの関係者を含めた建設的な食事会の話をいただいたり、さらに、夏休みには町屋をつかった展覧会を開催してくれることになっています。

そして私たちのホームページを見てくれた、近畿大学の食育をおこなっているサークル「ミノリティ」とも秋に食育イベントを開くことになっています。

今後はこちらから呼び込むだけでなく、町屋で主体となって活動をし、人を呼び込んでくれる人の輪をひろげていく予定です。